

日本における中医気功の応用

青島大明

この度、「華佗五禽戯と気功の臨床応用」というテーマでシンポジウムに参加させていただくことになり、大変嬉しく思っております。五禽戯と密接な関係にある大雁功を、中医学の理論と組み合わせて日本で臨床応用していることを、出席した指導者や先生たち皆さんに報告したいと思います。

1. 新型コロナウイルスの流行

3年近く世界を脅かしてきた新型コロナウイルスは、まだ終息していません。日本での流行が始まって以来、さまざまな予防策がとられていますが、新型コロナウイルスの無料検診はありません。

自費で検診を受けている人もほとんどいません。

無症状の人はほとんど認識できないので、不安や恐怖の原因になります。2022年10月7日現在、新型コロナウイルスの患者人数は21,516,038人、死亡者数は45,424人となっています。



2020年2月、徐々に流行が拡大するなか、学会副主席で学術委員会常務副主任のウェューロン魏玉龍教授に依頼し、日本の状況を考慮の上、板藍根、金銀花、甘草の3つの薬で代用茶を処方していただき、非常に効果的であったと思います。

私たちもこの流行前に魏玉龍^{ウェイユールン}教授の処方を使い、全員がインフルエンザやいくつかの病気を克服していたので、今回は氣功院のホームページに掲載して、8000人の会員に見ていただき、使ってもらうことで間に合わせました。

同時に、大雁功という氣功の練習を毎日続けること、太陽を浴びること、高たんぱく質の食品を多く食べること、氣功の施術を適時に受けることを全員にアドバイスしました。

現時点では死者はゼロ、重篤な病気ありません。会員を代表して魏玉龍^{ウェイユールン}教授と世界医学氣功学会に心から感謝致します。

新型コロナウイルス感染後の後遺症にも氣功施術を用いました。例えば、味覚や嗅覚がない人でも基本的に1~2回の氣功を受けて回復し、もっと重症な人でも3~4回の施術で回復しました。

また、コロナの後遺症による脱力感、胸のつかえ、息切れ、食欲不振、疲れやすい、緊張しやすい、うつ病、躁うつ病なども氣功施術で見事に解消されました。

2. 四十年にわたる氣功による病気平癒の総括

私は40年にわたり日本で氣功施術により人々を癒し救ってきました。
以下、それぞれの病気に対する私なりの認識と施術方法を論文にまとめましたのでご紹介します。

1. ヘルニア、神経の病気

①視神経

外傷性視神経障害に悩む15歳の患者を氣功で回復した例を紹介します。
彼は頭を強く打って視神経を損傷し、右目を完全に失明していました。複数の眼科医に診てもらったが、いずれも「治らない」と診断された。
2年8ヶ月後、彼は私の氣功院にやってきました。最初の氣功施術で光の感覚があり、3回目には文字と色がわかるようになり、その後も氣功施術を受けるたびに視野が広がり、4ヵ月後には銀行カードの裏の小さな文字が裸眼で読めるようになったのです。

②神経痛

例えば、带状疱疹による神経痛、顔面神経麻痺、神経痛、癌など、気功により効果的に施術を行っています。

③ギックリ腰

これは 1976 年に賈永斌大師から教えていただいたことです。不通則痛の理論に基づき、経絡を開いて病気を解決する。例えば、ギックリ腰の場合、軽症であれば簡単に治りますが、痛みが強く長期間治らない重症の場合は、基本的にまずお腹の経絡を通じさせて、次に太腿や手の経絡を通じさせるようにします。お腹から経絡を開く方法はとても簡単です。ギックリ腰で車椅子で来院の患者さんや、ベッドから起き上がれない患者さんにこの方法で施術を行うと、数分後には歩いたりジャンプしたりできるようになり、すっかり元通りになっています。

2. 過敏症

1990 年から現在まで、化学物質過敏症、電磁波過敏症、食物アレルギーなど、それぞれのアレルゲン物質の異なる患者さんを回復させてきましたが、これらはすべて中枢神経障害であると私は考えています。

①化学物質過敏症

化学物質過敏症の人は、程度の差はありますが、あらゆる化学物質にアレルギー反応を起こし、その原因もさまざまと言えます。例えば、鉛筆の芯の塗料、プラスチック製の電話受話器、印刷のインクの匂いなど、化学物質や化学物質の匂いに対するアレルギー反応などです。そのアレルギー反応は、呼吸困難、心臓病、高血圧、神経痛などの症状を引き起こし、日常生活に大きな支障をきたすことがあります。

私の気功、法術の施術を受けると軽症の場合は 1～2 回で、重症の場合は数回で正常に回復することが可能になります。例えば、強力な殺虫剤、歯科医院などで使用された化学接着剤や薬剤など、使用できなかった薬剤が使用できるようになり、病気による痛みや不安が解消されます。

②電磁波過敏症

電磁波過敏症の人も程度の差はありますが、あらゆる電化製品にアレルギー反

応を示します。例えば、電子レンジ、蛍光灯、テレビ、パソコン、電球、電線、扇風機などにもアレルギー反応がでるようです。

私の気功、法術の施術を受けてから、電子レンジの使用、使用中の電子レンジを抱きかかえることも出来るようになり、テレビなどの電化製品のスイッチのオンオフもアレルギーの反応なくできるようになりました。

③食物アレルギー

例えば、卵、小麦粉、牛乳、昆虫類（甲殻類含む）などの食品にアレルギーがある方でも、私の気功施術を受けるとすぐに効果が現れ、直後に食事ができるようになるのです。

特に化学物質過敏症や電磁波過敏症の場合、毎年多くの方が自殺されており、過敏症が患者さんの日常生活や仕事にもたらす苦痛は想像を絶するものがあります。化学物質過敏症や電磁波過敏症は、患者自身が化学物質を体に悪いと感じ、情報の相互干渉や相互影響と相まって中枢神経障害を引き起こし、心理的暗示による情報アレルギーの一種であると考えています。それらの治療には食物アレルギーよりも時間がかかるるので、法術で施術をすることが一番最善の方法です。

3. 癌

癌患者は末期症状になると治らない場合が多く、非常に辛いものです。しかし、私の気功指導と気功施術により、多くの末期患者の癌が回復し、5年間の生存もあり、そして生活の質が非常に高くなりました。

2019年の私の論文では、2012年にステージ4の前立腺癌と診断された患者が、ホルモン療法（1年）と玄米菜食などのさまざまな民間療法（5年）を受けたことを説明しましたが、2017年1月に体調が悪化し、前立腺癌は骨、肺、腹膜、大腸、肝臓、背骨のリンパなどに転移しており、余命1ヶ月と宣告されました。西洋医学の治療を受けながら2017年8月に初めて私の気功院へ来院し、私の気功施術を受けました。

2018年以降は数か月に一度の定期健診に加え、毎週私の気功施術を受け、本人も真剣に気功の勉強をしています。現在、肝臓にわずかな癌がありますが、他の部分の癌は消失し、生活の質も非常に良好です。

私は、弱い部位を強くしたいと思う、その人自身のその思いが強い癌細胞を生み出しているのだと思います。

本来の目的は健康であること。

けれども、弱った細胞は抵抗力が弱まり、栄養が行き届かなくなる。

癌細胞とは、細胞を生み出す力が強く、生存能力が高く、また、血管を生成し、さらに、エネルギーを吸収する最強の細胞を形成する性質があります。その人の細胞は弱いからこそ、強い細胞（癌細胞）は激しく増殖し続けるのです。

現代医学では、癌の治療は、薬、手術、化学療法などの方法に頼っており、その中には有効なものもあります。効果はありますが、患者さん自身の癌を生み出す習慣を根本的に変えるものではありません。

気功施術の中で、癌細胞は基本的に人間の頭の経絡の中で活動し、生成されることを発見しました。癌細胞は非常に強い力を持ち、特別な能力を持った細胞であり、そのエネルギーで作られた細胞が癌細胞です。

現代医学では、がん細胞を消滅させる方法が多く採用され、中にはある程度の効果があるものもありますが、転移しやすく、進行すると治療もできなくなります。基本的には癌細胞を作っているのですが、自分自身のそれまでの考え方や自分の中での哲学が変わったおかげで、進行しているにもかかわらず、癌が消えてしまう人もいます。しかし、これは結局のところ、ごく少数派に過ぎません。

私は癌細胞の発生を抑制し、活発に作り出す行動を止めることで、癌細胞の増殖を止めることに成功しました。

癌細胞には一定の生存期間があるので、これを利用して少しずつ癌細胞の生成を抑え、最終的には体内から消滅させます。

要するに、人がやってはいけない事をしたり、やるべき事をやらなかったり、問題の捉え方や対処の仕方の間違いから、癌細胞が生まれるということです。

4. 精神病、鬱病、躁鬱病

気功施術も非常に効果的です。精神病患者の症状は、病気の臓器によって異なります。例えば、落ち込んでいる人、気分が異常に高揚している人、短気な人、怒っている人、悲しんでいる人、不安な人、考え込む人、パニックになる人などです。五臓六腑が五感に対応するという中国医学の理論に基づき、気功で施術し、患者の臓器を整え、満足のいく効果を得ました。

5. 循環器

いくつかの研究があります。血液疾患：糖尿病、血小板疾患、白血球疾患、白血球増加症または白血球減少症、血小板減少症、貧血など、それぞれ原因が異なります。私の施術方法は、第一に臓腑の調子を整えること、第二に適切な栄養食品を摂取すること、第三に漢方の理論に基づいて漢方薬を併用することであり、気功と漢方を組み合わせた施術には素晴らしい効果が得られています。

私は、祝由（法術）の隔山止血の方法で、脳出血、くも膜下出血、脳幹出血の患者を何人も救済してきました。いずれも手術をせず、後遺症もほとんどなく回復しました。

病気の発症直後に私にご連絡をいただければ、どこにいても電話と情報で隔山止血法を使い最良の結果を出すことができます。つまり遠く離れていても情報伝達によって血管を修復することができるのです。これは命を救う方法です。もしそのようなケースがあれば試してみたいでしょうか。すぐにこの方法で治った病気には、基本的に後遺症はありません。

コロナ禍では、気功施術を受けたくても外出が怖いという患者さんがいることを考慮して、電話や WeChat による動画での気功施術も追加し、こちらでも大変満足いただける結果を得ることができました。ご興味のある方は、体験も可能です。

この電話での気功施術は、私がずっと以前から行っている施術方法です。1980年代前半、私の恩人である大雁気功の楊梅君大師から遠隔操作治療法を教わりました。救急患者の施術にもこの方法を使いましたが満足していただきました。その後、患部の位置を正確に把握し、時間内に施術効果を確認するために電話気功施術を行いました。新型コロナ禍以降、電話による気功施術はビデオ方式になり、施術がより便利でコミュニケーションがとりやすくなり、より効果的な施術ができるようになりました。

私は4歳から健康気功に触れてきました。15歳で医学気功を学び始め、来日してから40年以上、私の最大の情熱である気功に携わってきました。医学気功に触れて以来、気功が人々の生活や身体健康、人類のより良い未来に大きく貢献していることを実感しています。現代医学では代替できない科学的な治療法であるだけでなく、人間の生命の神秘を探る上でも大きな役割を果たしています。病気には、情報と密接に関係しているものがあります。中国のごく初期には祝由（法

術)が情報統制に使われました。

実はこれ、人体の情報をコントロールする方法の一つなのです。

皆様、ご清聴ありがとうございました。

2019 年学会での写真を 3 枚ご紹介します！

